

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第62回 神宮式年遷宮



平成25年(2013)
御鎮座950年式年大祭

平成25年(2013)
皇紀2673年

奉祝 御鎮座950年式年
御鎮座950年式年奉祝大祭号【第97号】
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

より高きご神威を仰ぎ奉りて……………	2頁
式年奉祝大祭(大宮八幡祭り)案内……………	3頁
式年大祭齋行……………	4頁
杜の話題……………	8頁
大宮八幡の杜 秋も深まり……………	10頁
初宮詣芳名・どんぐり通信……………	12頁
式年奉祝大祭社頭風景……………	14頁



式年大祭奉祝行事：5月26日 小笠原流流鏝馬神事奉納

より序きご神威を仰ぎ奉りて

宮司 鎌日 紀彦

いよいよ今秋、第62回神宮式年遷宮、遷御の儀が10月2日内宮、5日外宮に於いて齋行されます。

この程、神宮大宮司様より皇大神宮遷御の儀奉拜のご案内を頂き、初めてのことでその光栄に恭しく思っているところでありますが、それに先だって8月5日以内宮のお白石持ち行事に特別神領民として奉仕のご許可を頂き、当宮より40名の方々と一緒に奉仕させて頂きました。

まず天照大御神様が「常世の浪の重浪の帰する国」と称賛された、清き渚に鎮まり座す「見興玉神社」で浜宮宮のお祓いを受け、清身ともに清められ、無垢塩草を戴き、お白石持ち行事の奉仕の無事を祈らせて頂きました。翌日(5日)白装束に身を固め、特別神領民2,000名とともに、一番車を奉曳しておはらい町通りを宇治橋の手前まで進み、やがて宇治橋を渡り各自手水の後お白石を受取り、現御正殿を遙拝して新御正殿敷地に参入し無事に御白石を奉献させて頂くことが出来ました。炎天下のもと初めての奉仕でありましたが、地元の方々の適切な指導により滞りなく納めることが出来、感激一入でございました。

式年遷宮の行われるこの年に当宮も御鎮座九百五十年の式年を迎え、去る5月のわかば祭りを式年大祭としてご奉仕申し上げ、5日の当日祭には神社本庁より献幣使として田中恆清総長(本宮・石清水八幡宮宮司)様のご参向を仰ぎ、又全国八幡宮連合より連合幣が奉幣使の穴井伸久総理(宇佐神宮宮司)様より奉られ、責任役員・総代を始め、全国神社関係者、氏子崇敬者多数参列のもと、厳粛のうちに賑々しく齋行させて頂きました。



尚宮の式年を記念して、本宮石清水八幡宮様のご厚意により特別にご下賜頂いた勅祭・石清水祭の御花神饌12台をご神前に奉供させて頂きました。

又、尚武祭や式年大祭を奉祝してのごどもの祭りの稚児行列に、今まで最高の113名の稚児さんの参加を得て、神輿渡御も加わる等、4日間に亘る式年大祭の諸祭儀も滞りなく盛会裡に齋行されたことは有難い事でありました。

その最終日、宮司以下本殿に参進し大祭終了奉告祭が始まりますと降雨となり、祭典を了え退下し始めると雨が上がり、やがて東の空に虹が出ておりました。これは、大神様が此度の祭儀をご嘉納賜り、自然現象を以てお示し頂いた感応の雨ではなかったのかと思わせて頂きました。

その外数々の奉祝行事の中でも小笠原流流鏝馬神事は、最高の関心事であり鎌倉武士を彷彿させる絵巻が再現・展開されました。次いで、夏越しの大祓には平素より2倍の840名もの参列を頂き、茅の輪潜り神事には表参道二の鳥居より神門に至る間に長蛇の列が出来ていました。

又、昨年より発会の氏子青年会が7月24・25日の納涼大宮天神こども祭りに模擬店を出店し、親子・ご家族連れの大変な人出で賑わいました。この祭りでも式年を奉祝して行わせて頂きましたが、この祭りにはもう一つの意味があります。それは、地球、太陽、月、銀河の宇宙を自然の大きな動きに合わせた生活のリズム感を身につけ、人として生かされていることを実感し体感しようとして、マヤ暦でもある「コズミック・ダイアリー」を使って世界的に実践している人達が居られます。

そのダイアリーでは1年は13ヶ月、1ヶ月は28日でめぐり、単純計算で1年は(13ヶ月×28日)364日となり、新年は7月26日より始まり、翌年の7月24日に終わります。そうしますと7月25日が空白の日となり、この時空を越えた曜日も無い日を「時間をはずした日」と呼んでいるのです。

この日に「時間をはずした日の祭り」として、世界中のアーティスト等が一緒に祭り(ライブやコンサート)を開催して、自然の移ろいのリズム感のある、本来の祭りの心(魂)を取り戻すべく、祈りの演奏をしようとするものであります。

当宮では、今年で13回目を数えますが、響道製さんの和太鼓に津軽三味線・尺八・25絃箏のコラボレーションによる奉納演奏があり、今回はコズミック・ダイアリーとこの祭りを提唱されている柳瀬宏秀師も参列されました。

特に師は、この祭りは14年前より今年(2013)の為に毎年行われてきた事を強調されておりました。実は天神祭の時、湿度も高く蒸し暑い中での祭典奉仕でありました。境内の蝉しぐれも一段と共鳴して激しく聞きとれ、演奏が佳境に入ってきましたと何と涼風が吹き始め木の葉や枝が爽やかに揺れているではありませんか。神々も真心からの祈りの演奏をご嘉納賜り、陪観の人も感動し、自然と共に神々も感応され、涼風を吹かせて下さっている様に思われ、神人一体の境地とはこの事であると実感させて頂きました。

式年大祭に依り、八幡大神様の廣大無辺なご神威がより高められいよいよ輝く中に、ご神恩に感謝して、恒例の大宮八幡祭りを式年奉祝大祭として、再度神社本庁献幣使のご参向を仰ぎ、例祭・氏子奉幣祭を齋行させて頂きます。

特に大祭を奉祝しての第28回神輿合同宮入りは、例年より200m遠く大宮八幡入口を発興(出発)地点に、9基の御神輿による宮入りが始まります。八幡通りの商店街から表参道を通り、神門内に参入。拝殿前の聖なる広場での9基一体の神輿振り、祭りの最も庄巻であり、能動的でエネルギー溢れるパワフルは、陪観の人々も担ぐ人々も神々と一体である事を体感して頂くことの出来る時であり、神人合一の境地へと一段と高められるひとときでもあります。八幡大神様の廣大無辺なご神威を感じて頂けるお祭りは、町全体や地域の人々が精神的にも更に高められ、氏子・崇敬者の皆様の心のバランスも保たれる社会的な使命も担っております。

今年も式年奉祝のお祭りを通じて、神々との触れ合いや自然の移ろいのリズム感も感じて頂き、心安らかに安らぎのある生活をして頂く事を願って止みません。

神々もより若々しく清々しく魅られる神宮式年遷宮の今秋、大宮八幡大神様のご神恩に感謝しつつ式年奉祝大祭に、多くの氏子・崇敬者の皆様のご参詣を頂き、より盛大に賑々しく齋行させて頂きたく思っております。

尚、御鎮座九百五十年式年の記念事業が達成されますよう、奉賛活動に更なるご支援・ご協賛の程を切にお願い申し上げます。

御鎮座950年式年奉祝大祭(大宮八幡祭り)

9月15日：例祭・氏子奉幣祭、第28回 神輿合同宮入り

本年は康平6年(1063)、当宮が源頼義公、義家公父子により京都の石清水八幡宮を勧請してこの地に創建されてより九百五十年の式年を迎え、去る5月5日には神社本庁献幣使として神社本庁田中恆清総長(石清水八幡宮宮司)のご参向を得て御鎮座九百五十年式年大祭が斎行されましたが、この式年を奉祝して大宮八幡大神の更なる御神威の発揚を祈り9月13日より16日の間、御鎮座九百五十年式年奉祝大祭(大宮八幡祭り)が斎行されます。

大祭期間中は9月14日夕、宵宮祭奉仕。翌15日午前10時より式年奉祝大祭(例祭・氏子奉幣祭)を斎行、神社本庁よりの幣帛、また大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の氏子6地区より捧げられたご浄財が氏子幣として大前に献ぜられ、御鎮座九百五十年を寿ぎ奉るとともに皇室国家のご安泰と氏子・崇敬者のご平安を祈念し五穀の豊穰を感謝致します。またこの日夕刻には第28回神輿合同宮入りが執り行われ、氏子6地区より9基の神輿が宮入り、ご社頭は熱気と興奮の坩堝と化します。

また15日には、去る5月26日に流鏝馬神事をご奉仕頂いた小笠原流一門による弓の神事「草鹿式」が催される他、16日には御鎮座九百五十年式年を奉祝して、第35回献華いけばな小原流展記念のいけばな小原流献花式が当宮で初めて斎行されます。また裏千家の野占茶会、佼成雅楽会による舞楽など多くの神賑行事で境内は賑わいます。

式年奉祝大祭期間中の祭事

奉納神賑行事

菊被綿神事	9月8日夕	弓道奉納射会	9月8日
神輿神霊入れ祭	9月13日	第15回菊被綿飾り奉納書画行燈	9月9日～16日
若宮八幡神社 例祭	9月13日	献燈提灯	9月9日～16日
白幡宮 例祭	9月13日	大宮幼稚園園児神輿宮入り	9月13日
各神幸所清祓・宮司巡拝	9月14日	大宮幼稚園園児民謡踊り	9月14日
宵宮祭	9月14日	方南エイサー踊り	9月14日
例祭・氏子奉幣祭	9月14日	杉並太鼓	9月14日
(大宮八幡祭り)	9月14日	高井戸囃子	9月15日
献幣使・奉幣使参向	9月15日	舞楽(佼成雅楽会)	9月15日
第28回神輿合同宮入り	9月15日	江戸芸かっぽれ	9月15日
神輿神霊返し祭	9月16日	小笠原流草鹿式	9月15日
第35回献華いけばな小原流展記念	9月16日	町内神輿渡御・宮入り(昼間)	9月15日
いけばな小原流献花式	9月16日	スカウト神輿宮入り	9月15日
終了奉告祭(直会儀)	9月16日	スカウトバザー	9月15日
		野点茶会(裏千家)	9月15日
		盆栽展示会	9月15日
		第35回献華いけばな小原流展	9月14日～15日
		露店「120店」	9月14日～16日



第28回神輿合同宮入り

大宮八幡祭りのハイライト、第28回神輿合同宮入りが15日夕刻より行われます。

御鎮座九百五十年を奉祝し、今年は特に大宮八幡入口に集結した神輿9基が、午後6時木遣りの音頭を合図に次々と発輿。参拝者で賑わう表参道を渡御し、7時15分頃より神輿が次々と神門を潜り大前に参入、担ぎながら社殿前所定の位置に付き、全9基が揃ったところで一斉に繰り広げられる神輿振りには将に圧巻で、城西随一とも云われ、境内は興奮の渦に包まれます。

御鎮座九百五十年式年大祭齋行

式年大祭厳かに(5月5日当日祭) 神社本庁総長猷幣使でご参向

康平6年(1063)、源頼義公により京都の石清水八幡宮のご分霊を勧請して当宮が創建されてより今年で御鎮座九百五十年を迎え、去る5月3日より6日の間、御鎮座九百五十年式年大祭を齋行。奉祝の神賑行事もあつて期間中境内は多くの参拝者の方々が賑わいました。

御鎮座九百五十年式年大祭の中心となる祭典は5月5日の式年大祭当日祭。風薫る快晴に恵まれたこの日、関係神社宮司、九百五十年事業高領奉賛者、関係諸団体代表、当宮責任役員総代ら200名が拝殿及び正面向拝



下石階上に設けられた特別参列席に着席。大前には本宮石清水八幡宮より特別にご下賜された勅祭・石清水

から200名が拝殿及び正面向拝



祭の御花神饌12台がお供えされたなか、午前10時より式年大祭当日祭を齋行。

国歌斉唱、開扉、献饌、宮司祝詞奏上のおと、神社本庁猷幣使としてご参向の神社本庁総長田中恆清石清水八幡宮宮司が神社本庁よりの幣帛を大前に献じて祭詞を奏上。また本宮・石清水八幡宮幣及び全国八幡宮連合よりの連合幣が奉幣使同連合穴井伸久総理(宇佐神宮宮司)より奉られました。



当宮附属幼稚園園児の舞姫4名による朝日子舞に続き、佼成雅楽会により舞楽「蘭陵王」が奉納され、参列の各代表者の玉串拝礼が行われました。



和やかに直会が行われる

ついで清涼殿にて先ず清興として観世流野村四郎師により祝言仕舞「老松」が舞われたあと直会が行われました。

行われました。

神宮通拝、

敬神生活の綱

領唱和に続き

鎌田宮司が挨拶。「この九百

五十年という

節目に石清水、

宇佐両宮の宮司様にご参向頂いた事は神社史の一頁を飾る出来事」と先ず感激の辞。そして「神宮式年遷宮と出雲大社の平成の大遷宮その同じ年に九百五十年の式年を迎えたことに大きなご神縁を感じ

る。役員総代氏子各地区には御鎮座九百年以降の集大成として社殿のバリアフリー化などの九百五十年事業に大変な奉賛のご努力を頂いている。鎌倉時代の貞永式目には

「神は人の敬により威を増し、人は神の徳によつて運を添ふ」とあるが、

こうした奉賛、大神様への赤誠の真心によつて、御神威がいや増し、さらにその高い御神徳によつてお守り

お導き頂けるよう、職員一同懸命にご奉仕、仲執持ちに努めたい」と改めて神明奉

仕への決意を述べました。

ついで神社本

庁田中総長が

挨拶。「神宮、

出雲大社、熱

田神宮千九百

年そして当宮

九百五十年式

年と今年には神

社界あげての慶

びの年。今、東

京国立博物館

で『国宝大神社

展』が催されて

いる。神社本庁としても初の試みだが、多くの国民に民族信仰である神社神道への更なる理解を深める好機会となれば幸い」と述べられました。

また来賓の立正佼成会庭野日鏡

会長は「式年大祭という神社界の重要行事に参列し身近に感じる事が出来ることは宗教者の一人としてまた日本人として大変有難い事。大宮八幡宮が地域の心の拠り所として尊い役割を果たして行かれることを氏子として期待する」と祝辞を述べられました。

また石原伸晃環境大臣は日中韓の環境大臣会合がスタートしているが機会があればこの素晴らしい大祭参列の話もさせて頂き相互理解の一助とさせて頂きたいと挨拶されました。

次いで姉妹

神社の宮城・竹

駒神社千葉博

男宮司の発声

で乾杯。和やかな懇談に移りました。



立正佼成会庭野日鏡

本宮・勅祭 石清水祭 特殊神饌「御花神饌」のご下賜

この度の御鎮座九百五十年式年大祭に際し、神社本庁の献幣使として、神社本庁総長、本宮・石清水八幡宮田中恆清宮司にご参向を頂きました。そのご縁で式年大祭を記念して本宮・石清水八幡宮より、全国でも珍しい特殊神饌として明治維新までは放生会、以後勅祭・石清水祭に宮中より奉獻されている御花神饌(12台)を特別にご下賜戴きました。

御花神饌は供花神饌とも呼ばれ、9月15日に行われる勅祭・石清水祭の折に毎年12台とも新調され、山下の嶮宮の御神前にお供えされます。男山から採取した各樹種の枝葉等、

第10回大宮八幡宮の杜新能

当宮御鎮座九百五十年式年大祭奉祝の第10回大宮八幡宮の杜新能が去る5月18日午後6時より当宮境内で催されました。この新能はNPO法人杉並で能楽を楽しむ会(田木千城夫会長)の主催、杉並区教育委員会の後援で野村四郎氏ら観世流一門のご奉仕により開かれていたもの。

当日、境内特設舞台では火鑽神事を奉仕。古式に則り火鑽杵、火鑽臼により熾された浄火が篝火に灯されて新能を開始。先ず御鎮座九百五十年に相応しく、めでたい舞囃子「高砂」

化学染料を一切使用しない古代染めの技法で染色した和紙を用いて、松と鳩

梅と鶯というように一台毎に樹木草花と動物が奉製されています。

12という台数については、一年12ヶ月の花々と説明されますが、本来は4×3座＝12台、すなわち春夏秋冬の花を八幡三所にお供えしたものと推測されています。



の内、住吉明神の八段之舞が舞われたあと狂言「文山立」。そして休憩のあと「船弁慶」の能一番が演じられました。兄頼朝に疎まれ西国に落ちる義経と静御前の摂津の大物浦の別れ。そして義経主従の船に襲いかかる平知盛の怨霊とこれを調伏しようとする弁慶。前場と後場に分けて演ぜられる「船弁慶」の幽玄の世界に陪観者は魅了されておりました。



奉祝の諸祭儀を奉仕

御鎮座九百五十年式年大祭当日祭に先立ち3日午前10時よりは式年大祭第一日ノ儀を奉仕。同日午後1時半よりこどもの祭り(稚児健康祈願祭)が行われ、子供の成長が祈願されたあと第35回稚児行列が実施されました。

九百五十年を奉祝して今年の稚児行列では特に氏子青年会、睦会により神輿の渡御が行われ、宮司が扈從。また佼成学園吹奏楽部を先頭に猿田彦、役員総代の陣羽織

そしてお稚児さんは行列始まって以来の113名の参加を得て南参道、方南通り、表参道の1.3キロを巡行。御鎮座九百五十年式年に相応しい行列が行われました。

また5月4日午前には式年大祭第二日ノ儀尚武祭を齋行。皇室を中心とする日本国の隆昌と氏子崇敬者の平安と家業発展とともに、今年の五穀豊饒を祈念致しました。



そして6日には式年大祭第四日ノ儀が奉仕され、当宮で結婚式を挙げられた方々が集う挙式者の集いが催された他、境内では「若葉inおおみや」を開催。クラシックギターデュオ「いちむじん」によるコンサートライブの奉納が行われました。

このほか期間中、杉並太鼓や雅太鼓の奉納演奏、方南エイサー踊り、古武道奉納演武、裏千家野点茶会などの神賑行事もあつて境内は終日多くの参拝者で賑わいました。

式年大祭奉祝の裏千家献茶式

御鎮座九百五十年式年大祭奉祝の茶道裏千家献茶式が5月11日午前、齋行されました。

第14回を迎えた本年はお家元御名代として伊住公一朗氏が初めてご奉仕、神前に濃茶、薄茶が献じられました。献茶式にはお家元(令室千谷子様)もご参列。

また境内では併せて裏千家淡交会東京第七東支部の担当主催による奉賛添茶会が奉仕され、また第六東支部のご奉仕で幼稚園茶席も行われました。



小笠原一門のご奉仕で、50年振りに 流鏑馬神事齋行

御鎮座九百五十年式年大祭奉祝の中心的行事の小笠原流・流鏑馬神事が5月26日午前、境内表参道の特設馬場を会場に第31代宗家小笠原清忠氏ら小笠原一門のご奉仕で齋行されました。

当宮の流鏑馬は鎌倉幕府を開いた源頼朝公が社殿を修造した治承4年(1180)に初めて催し、小笠原流始祖の長清公もこれに奉仕したと伝えられます。下って江戸期、境内の射場では各流派が弓箭練磨を競い合ったことが各流派の奉納額に明らかになっています。近年は御鎮座九百年に執り行われ、今回は50年振りの齋行となったものです。

総奉行が祭文を奏上

当日午前10時、先ず社殿にて奉納奉告祭を齋行。

宮司祝詞奏上に続き、流鏑馬執行の責任者である総奉行(内山誠貴任役員)が祭文を奏上、流鏑馬神事の奉納を八幡大神様に奉告申し上げました。



道大鳥居より神門に至る13キロを巡行。綾・蘭・笠に鍔直垂、行際

に太刀を佩き、右手に塗鞭、左手に重藤の大弓を握る揚装束(流鏑馬)の射手姿に華麗な鎌倉絵巻が再現されました。特設馬場は騎走の通り道で、砂盛りの疏の左右には埒と呼ばれる綱の柵が張られます。社殿に向かって右、的側の埒を男埒、反対側は女埒で大鳥居を潜った流鏑馬行列は男埒、女埒を回って馬場を一周、諸役が所定の位置に付きます。



宗家、奉仕者の代表の総奉行の玉串拝礼のあと各射手へと弓矢授与がなされ、外拜殿にて奉幣の儀が行われました。

華麗な流鏑馬行列

奉告祭に続いて馬場入りの儀。神事旗を先頭に騎乗の宮司、総奉行、日記役、一之射手、二之射手、三之射手。徒士(歩行)の祐筆、奉行的持、矢拾いなど総勢百名の流鏑馬行列が神門前を出発。南参道、方南通り、大宮八幡入口を経て、表参

特設馬場で鎌倉の武者振り

定刻午前11時半、馬場中央女埒側日記所に陣取る甲冑姿の総奉行が「流鏑馬始めませい」と日記役(井川氏子青年会長)に宣り、日記役は一之射手に告げます。

的奉行の合図での持ちが的を懸け掲げ、神門側馬場の始めの

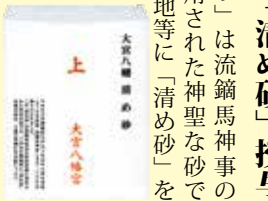


馬場元役と大鳥居側馬場の終わりの馬場末役が馬場の安全を確認し、紅、白の大扇を掲げて合図を送ります。同時に射手が馬蹄の音を轟かせ、「インヨー(陰陽)イー」の掛け声と共に174メートルの特設馬場を気に駆け抜け、一之的、二之的に矢を放ち、一瞬の内に射止めました。

この日は揚装束の神事流鏑馬と徳川8代將軍吉宗の命により定められた軽装の騎射扶物を奉仕。皆中者は鎧を外して日記所に進み、宮司が神祿(白絹一反)をぬるでの木の先に付けて授与。この颯爽とした誉れの姿に凡そ1,000人の陪観者より大きな拍手が寄せられました。

流鏑馬神事「清め砂」授与

この「清め砂」は流鏑馬神事の特設馬場で使用された神聖な砂です。ご自宅の敷地等に「清め砂」を撒き清め、土地の罪穢れをお祓い下さい。当宮社頭にて授与しております。



第13回十五夜の神遊び

御鎮座九百五十年式年の本年は、9月21日(土)に、当宮鎮守の杜で秋の名月を愛でる、第13回目の「十五夜の神遊び」が斎行されます。

当日、境内も暗くなり始めた夕刻午後6時より、先ず献灯神事が行われます。社殿前に並べられた凡そ1,200基の竹燈籠に、ご参列の皆様と共に火を灯し、次いで社殿にて祭典が執り行われます。

その後、竹燈の仄かな灯りに照らされる中、神楽殿に舞台を移し、当宮神職・巫女による雅楽と神楽舞の奉奏。そして、午後7時より月の音舞台として、『き乃はち』氏による尺八の奉納演奏が行われます。

どなたでもご自由にご陪観頂けますので、鳴虫の声と共に月明かりに輝く神苑に響き渡る尺八の音に耳を傾けながら、雅と幽玄に浸る至福のひとつをお楽しみ下さい。



「月見の宴」のご案内

清涼殿では、「十五夜の神遊び」に因んだ特選料理「月見御膳」をご賞味頂く「月見の宴」を月の音舞台奉奏後(午後8時頃より)開催致します。

名月を愛で、古式ゆかしい雅楽・神楽の調べや尺八の演奏をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、お月見ムードに飾られた清涼殿の会場にて「月見の宴」をお楽しみ頂きますようご案内申し上げます。

尚、定員になり次第締切りとなりますので、お早めにお申し込み下さい。
※雨天も「十五夜の神遊び」の音舞台は行われずお申し込み・お問い合わせは

大宮八幡宮 清涼殿まで
☎03(3312)7515

第15回菊被綿飾り

重陽の節句の宮中行事「菊被綿」が来たる9月9日より16日の間、清涼口ピーに展示されます。

菊花は破邪延寿の霊力を持つと古来より信じられ、特に平安朝からは菊被綿が9月9日重陽の節句の行事として宮中を中心に行われ、当宮では天皇陛下御即位10年を奉祝、平成11年に再現されてより今年で15回となります。

重陽前日の8日夕刻、社殿にて



【月見御膳】 ◎御神酒付
お一人様 5,900円(税込)
『月の音舞台陪観指定席』含む
限定100名

菊被綿神事を斎行。拜殿向拝下に並べられた菊花の上に、色鮮やかに染められた3色の真綿が巫女により被せられます。

そして翌9日、朝露を含んだ菊被綿が日供祭に合わせご神前へとお供えされ、その後清涼殿口ピーに展示されます。どなたでもご自由にご覧頂けます。



献燈提灯奉納のご案内

大宮八幡祭りの期間中多くのご参拝の皆様方をお迎えするに当り、当宮社頭にご芳名(社名)を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、賑々しくお飾りさせて頂きます。

つきましては、左記によりご献燈を賜りたくお願い申し上げます。

掲出期間 9月8日から30日まで
初穂料 一燈 一〇,〇〇〇円
申込締切 9月1日(郵送は8月31日必着)

戌の日詣りは

子育八幡さまの当宮で
安産祈願のご祈禱を!
※戌の日以外も随時受付しております

ご祈願の方には安産腹帯(大宮八幡息長帯)と共に、へその緒で結ばれた母子が健康にご出産の時を迎えられる様にとの願いが込められたマタニティマーク入りの「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与致します。

戌の日早見表

9月 5日(木)	17日(火)	29日(日)
10月 11日(金)	23日(水)	
11月 4日(月)	16日(土)	28日(木)
12月 10日(火)	22日(日)	
1月 3日(金)	15日(水)	27日(月)

は大安の日です

納涼大宮天神こどもまつり

夏の夜を彩る風物詩、御鎮座九百五十年式年奉祝の第13回「納涼大宮天神こどもまつり」が境内5000の書画行燈や竹燈の揺らめく中、7月24・25日の両日行われました。

24日は宵宮祭を、翌25日午後5時半より大宮天満宮で天神祭齋行。マヤ暦を元にしたコズミック・ダイアリー（13の月の暦）より、「時間を外した日の祭り」を提唱した柳瀬宏秀氏らも参列。引き続きこどもあかりみこしの渡御が行われ、午後6時半よりの杜のひびきinおみや（時間をはずした日の祭り）では響道夏氏らによる和太鼓・三味線・尺八・箏のコラボレーションが行われ、陪観者を魅了。神門前広場では、子供のミニ花火の集いや氏子青年会の模擬店も出て親子連れの方々が賑わいました。



神宮お白石持ち行事を奉仕

第62回式年遷宮については天皇陛下の御治定を得て10月2日には内宮、5日には外宮の遷御の儀が斎行されますが、それに先立ち神領民が新殿の御敷地にお白石を奉持し



て敷き詰める「お白石持行事」が行われ、当宮でも8月5日に特別神領民として一行40名がご奉仕致しました。

お白石持奉仕は大祓形代流し旅行と合わせ実施。一行は8月4日早朝バスで当宮を出発。蒲郡にて形代流し神事を奉仕後、外宮を参拝。次いで二見浦にて浜参宮を行って南鳥羽の相差温泉に宿泊。翌日午前、皆が白の上下に、特製の半纏・鉢巻を付け約3時間半に亘って内宮お白石持ち奉仕を行いました。奉仕後一行は鈴鹿の椿大神社を参拝し、岐阜県に向かい下呂温泉に宿泊。翌日は飛騨高山の櫻山八幡宮、崇敬真光教団などを巡拝して松本経由で帰京しました。

第30回戦没者慰霊祭を奉仕

当宮氏子区域出征の戦没英霊をお慰める第30回戦没者慰霊祭が終戦記念日である8月15日、清涼殿に特別祭場が設けられ斎行されました。

当宮戦没者慰霊祭実行委員会の主催で毎年行われているも



タイの留学生ら神社体験

今年も、全国戦没者追悼式に合わせ、正午の時報を合図に黙禱を行った後、慰霊祭を奉仕。当宮と兼務社の氏子出身の英霊329柱に感謝し、慰霊と追悼の誠が捧げられました。



4月19日、タイのマヒドン大学宗教学部の学生ら7名と講師2名が半日間、当宮にて神社神道を体験致しました。当日は、白衣・緋袴姿に着替え朝拝より参加。竹箒を持つての境内清掃やお抹茶のお点前を見学。そして大宮幼稚園では園児達が歌でお出迎え。最後に宮司より神道についての説明が行われ、日本の文化の一端を体験致しました。

大宮宮元會が新たに発足

この度、御鎮座九百五十年の式年を機に、当宮氏子睦会の大宮一丁目町会及び八幡前通り商栄会と大宮二丁目町会及び宮元會が発展的に対等合併して、新しく睦会「大宮宮元會（略称宮元會、五本木徳治会長）」が発足致しました。

地域は、大宮一丁目・二丁目全域、八幡前通り商栄会、(旧大宮町及び隣接地区の一部を含む)となりました。これにより、氏子町内睦会の神幸所が13カ所になりました。

杉並総代会会長に五本木役員就任

杉並区神社総代会総会が去る6月27日午後、区内の神職総代ら60名が出席して当宮で開催されました。昇殿参拝後、役員会を清涼殿で開催。平成24年度業務報告、同決算報告、神宮式年遷宮奉賛金納付状況報告等の議案を承認。

続いて行われた役員改選では当宮五本木徳治責任役員(大宮地区)が杉並区神社総代会会長に選出されました。



御鎮座九百五十年記念事業

青空に大幟はためく

御鎮座九百五十年記念事業の一環である表参道大幟ポールの設置工事が、去る4月26日に奉納者である(株)大塚工務店 大塚喜二元責任役員ご参列のもと無事竣工致しました。そうして迎えた式年大祭では、氏子中よりご奉納頂いた高さ13mを超す大幟一対が薫風に翻り、表参道を行き交う参拝者らを迎えておりました。



大宮八幡の杜 秋も深まり

第35回杉並大宮菊花展

第35回 杉並大宮菊花展が杉並大宮菊の会の主催にて10月23日から11月24日までの間開催されます。

杉並区内外在住の菊愛好家の方々や4月より月毎に行われている「菊の講習会」参加者らにより丹精込めて育てられ、近年の夏の猛暑を耐えて大きく伸びた、数々の美しい菊の大輪が出品され、御鎮座九百五十年式年の秋の境内を鮮やかに飾ります。

秋の豊かな実りに感謝 新嘗祭

11月23日「勤労感謝の日」は、元の祭日「新嘗祭」。古くは陰暦11月の中の卯の日に執り行われ、天皇陛下が新穀を天地の神にお供えされ、御親らも食される国家の重儀です。

当宮でも午前9時より式年を奉祝して大祭式で奉仕され、当宮幼稚園の田んぼで園児らが育てた初穂を始め、氏子崇敬者からの和稲荒稲、穀物野菜果物などが大前に



奉獻され、秋の神の恵みを感じます。

志野流香道 献香式

前回、平成15年の御鎮座九百四十年を奉祝し行われた献香式。御鎮座九百五十年式年の今年も、新嘗祭の翌日、11月24日午前10時30分より、式年を奉祝して志野流香道第二十世家元松隠軒蜂谷幽光斎宗玄宗匠ご奉仕による献香式が執り行われます。

香は、仏教伝来以前に我が国に存在していたとも言伝えられますが、体系化されたのは室町時代とされ、志野宗信により作法も整い、香道として確立したと云われます。当日は、併せて志野流香道東京松隠会による組香や名香の聞香席なども設けられます。



第23回杉並花笠祭り

当宮師走の風物詩「杉並花笠祭り」が12月14日、当宮境内で催されます。杉並花笠祭りはサミット(榊)、(榊)サミット・コルモそして当宮の共催で毎年開催、今年で第23回となります。当日は式年を奉祝して開催奉告祭に続

き、境内特設舞台での鏡割や午前後2回にわたる花笠踊りパレードを実施。山形県人会や地元商店会の方々の威勢のいい掛け声が境内に響きわたります。また参道では地酒や芋煮も振る舞われ、3万人の参拝者で賑わいます。



神符奉戴式並びに大麻頒布

明平成26年の新春を前に、氏子崇敬者や全国の立正佼成会会員の

式年奉祝大祭後の主な祭典行事

10月23日

第35回杉並大宮菊花展

11月24日

月次祭並七五三祝祭

11月23日

新嘗祭

11月24日

志野流香道献香式

12月14日

第23回杉並花笠祭り

12月23日

天長祭

12月31日

大祓(年越大祓)

除夜祭

平成26年

1月1日 神能「翁」・厄除開運大祈禱
1月2日 歳旦祭
1月3日 小笠原流曇目の儀・大式的元始祭
1月15日 古札焼納祭(どんど焼)

方々がお受けになるご神札をお頒ちする、神宮大麻頒布式並びに氏神社神符等奉戴式が11月初旬斎行されます。ご神前にて大宮大麻、大宮三宝荒神など当宮のお神札にご神霊をお遷しし、伊勢の神宮大麻と併せ頒布始めの旨を八幡大神様にご奉告申し上げます。

年頭に当たり、ご家庭や事業所に新しいご神札をお祀りして、共に清々しい新年をお迎え致しますよう。尚、今までお祀りされていた古神札等は、年末より新年10日過ぎ頃まで、境内の古神札納所にてお預かりしております。一年間お守り頂いた感謝を込めてお納め下さい。

平成26甲午年

「新春初祈禱」のご案内

当宮では、平成26甲午年の新春にあたり、皆様の健康・ご繁栄をお祈りする新春初祈禱を1月1日午前0時より連日随時ご奉仕させて頂いております。

11月末頃より受付致しておりますので、授与所へお申し出下さい。また企業や団体関係の皆様には、仕事始めの1月4日より、ご参拝日時のご予約を承っております。

年の初めに、社員・ご関係の皆様お揃いで八幡大神様の御神徳を戴かれ、新しい年が幸多きご発展の年となりますようお祈りさせて頂きます。

新たに「幸福撫でがえる守り」を授与
幸福がえる絵馬

当宮清涼殿を出てすぐ右手の幸福撫でがえる石は、撫でられた方々が幸福を得られるようにと祈念して、今年の御鎮座九百五十年式年を記念して名付けられました。

この「幸福が、得る。」に因み、「幸福撫でがえる守り」とハート型の「幸福がえる絵馬」を新たに奉製致しました。
5月の式年大祭より社頭で授与



しておりますが、「可愛らしい」と評判で、多くの方々がお求めになられております。

りんどう会だより

去る6月5日に当宮敬神婦人会(りんどう会)総会が開催されました。総会終了後は、折り紙で七夕飾りを作成。この飾りは7月7日「七夕の神遊び」の際に本殿の笹竹に付けられ、参列者の目を楽しませていました。



又、夏越の大祓に併せ、神社と共に催で大宮八幡塾「水無月書写会」(大祓詞書写会)を開催。参加者の方々が浄書した大祓詞などは、大祓神事に続き齋行された大祓詞等浄書奉納奉告祈願祭にて神前へと奉納されました。
ご入会希望の方はお気軽に事務局(社務所)へお申し出下さい。

氏子青年会だより

当宮氏青では昨年引き続き、7月24・25日の「大宮天神こどもまつり」にて模擬店を出店。揃いの氏青Tシャツに身を包み、威勢の良い掛け声と共に焼きそば等を販売。猛暑と相まってかき氷・ラムネは飛ぶような売れ行き。大人から子供まで、多くの参拝者で賑わいました。



ところで、今回模擬店にお目見えた「サトちゃんムーバー」。音楽に合わせて、前後に動き回ります。子供たちも大喜び、すっかりみんなの人気者です。

結婚式挙式者芳名

(平成25年3月31日、平成25年8月31日、敦祿略)
佐藤 竜太郎・知子 黒河内 重和・朋子
瀧川 英次・絵美 加藤 一郎・正枝
相庭 健太・晴江 平野 太一・咲詠
吉田 将・小夜子 富田 亮・由美子
市原 義明・和可奈 高山 俊介・詠美

緑豊かな都心の杜。感動の瞬間

初詣 宮詣 詣会
衣装・美容着付・写真・初宮饗膳(ご会食)など承ります。

清潔殿 03(3312)7515

御鎮座九百五十年式年記念

フォトコンテスト開催中

当宮の自然や行事風景を、プロアマ問わず写真愛好家の方々の目で写し撮って、その作品を八幡大神様にご奉納頂き、平成26年のわかば祭り(春の大祭)期間中に展示し、ご参拝の皆様にも楽しんで頂きたく、御鎮座九百五十年式年の奉祝行事としてフォトコンテストを開催致しております。

応募期間 平成25年4月1日、平成26年3月31日(1年間)

Aコース…2Lサイズ部門
Bコース…4ツ切サイズ部門

大宮八幡宮に關係した作品であれば風景・人物・行事等テーマは自由です。但し、各神事での撮影禁止事項をお守り下さい。両コース共に、写真店での現像にてご応募下さい。(一人5点まで)応募作品についての注意事項は、社頭やHP上にて要項をご確認下さい。

協力写真店

ホッタカメラ本店(浜田山)

フォトグラフィ三光堂(大宮八幡宮入口)

パレットプラザ永福町店(永福町)

カメラハウス本店(久我山)

ストックワーク(中野)

◆応募票に必要事項を記入して、右記協力写真店に持ち込むと、参加作品に限りプリント代20%オフの特典があります。

初宮詣芳名

(平成25年3月20日〜平成25年7月24日敬称略)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

梅田あいじ 平野瑞和 西園航太郎 佐藤和真
 小平莉乃 野口光 望月野乃華 福島大翔
 西井彩織 田中文登 富平理央 櫻井湊仁
 菅原礼 石井大地 福地千代 久保翔
 有澤由馬 鈴木香凛 角井望咲 小菅丈太郎
 本田優誠 森田結稀 若杉衣紗 大東怜央
 伴遼太郎 武智心咲 下久爾結子 久次米凛音
 五十嵐真唯 塩谷勇太 東寛樹 村田朱理
 鱒航希 大野隼太郎 佐藤悠真 浜田裕太
 田村隼都 池田悠磨 秋葉美織 大久保咲希
 佐藤楓 松本菜々 池上宗佑 前田洗輔
 奥村美咲 坂本莉音 澤口心希 権藤知明
 佐藤総太 田川蓮 高橋菜菜 佐々木茜
 中島朱音 曾我渚 安田晴祇 長井梨花
 宮原紗奈 黒田竣亮 加藤未紗 鈴木実空
 橋本孝虎 佐藤陸斗 増澤柚香 鞠川結
 中橋隆良 坂下理乃 梅影みり 竹内希恵
 三浦舜太郎 上田穂果 大津柚季 丹羽結士
 須田陽路乃 栗本拓磨 古澤奏宇 川崎仁晴
 岡沢健一 童澤尚 吉田旺祐 高橋幸香
 稲積悠 東村咲季 橋本さやこ 橋詰佑
 松本奈乃羽 檜山瑠那 添島玲那 鈴木凜子
 松本美乃里 岩崎乃子 田村汐 吉永花乃
 石戸優奈 森玲良 スズランズ 花岡怜音
 白井莉子 佐藤大成 菫 所優莉
 上野由翔 幸本真依 小坂和士 高井梓帆
 磯島理人 五本木颯希 永田汐 長谷川陽季
 檜山杏珠 梶田祐希 吉田ひかり 市之瀬葵
 井上欣待 佐々木咲耶 杉元優月 藤森千智
 榎下和輝 山根千里 武田侑悟 石川凜生

浅野美羽 押木陸 市川瑞騎 吉田宗太
 大友芹奈 山下はる 中村俐水 後藤心春
 大浦聡真 楠原孝時 小出葉菜 相羽優花
 藤藤太 福谷奈津 多田圭佑 鐘ヶ江旬
 芝山瞭子 宮本将生 平原岳 高橋透真
 山口響 有村優里 長谷川陸翔 縄田和
 浅野楓牙 蘭森仁 成松康太 飯塚壮夫
 伊東柊 中山さくら 林紗奈 飯塚航大
 三浦桃花 佐藤亮斗 千代谷駿太郎 田上遼
 高島永実莉 川又美友希 村井温 今井美晴
 中嶋大晴 山本莉央 吉川泰佑 工藤夢里菜
 川村璃々子 矢部愛菜実 石田大弥 間碧央
 井上真守 齋藤勇太 佐野晴香 泰萌々花
 田中大翔 佐藤すみ玲 原琥太郎 井ノ口裕翔
 鈴木佑和 和田七海 新井咲花 八木本光
 矢野春樹 松本瑠保 木村太一 矢澤勇希
 岩下璃子 泉咲優 長谷川そら 長井凜
 大道丈太郎 高橋陽菜 山崎未來 國府菜葉
 松井克樹 高石ゆい子 石黒瑛世 武田陸央
 佐古悠人 中川翔太 川名優也 中村清志郎
 重政香帆 和田光生 中村瑛菜 石毛結真
 尾崎奏 渡邊莉菜 加藤心彩 玉木紘一
 田代龍ノ介 鈴木志織 松並まみ 佐藤一青
 太知侑心 仲西瞭 大藤陽名子和 栗百花
 天野蒼大 熊谷亮 安立凌一郎 小田垣颯丞
 菊池新 松永あおい 山内歩乃佳 渡邊朱理
 林和宏 出木合理紗 梅澤恵大 松田唯太郎
 二宮彩愛 前田凜太郎 佐藤知優 坂本遙香
 井上陽菜 阿川川むつみ 小笠原奈恵 齋藤陸
 志熊淳都 伊藤終一郎 三平修司 平石大洋
 成未優花 松本春奈 山口純花 土屋来
 松本紗祈 堀川直翔 中島希穂 井村翔
 赤尾蓮翔 池田日香梨 大富彩愛 田上塔子
 小林鈴音 栗崎黎 砂治龍之介 岩田千歳
 前野恭諒 高橋昌也 中村圭那 角地幸丸
 前田早愛 屋代悠斗 山崎惇太 山梨華凛
 松本和弥 田嶋工幹 白旗哲志 前田実佳子
 北岡千桜 外河玲 柳瀬光希 佐藤颯
 在原実里 齊藤吏枝 柿爪杏里紗 棚本ひかり
 井坂悠真 宮崎奏夫 森田鉄平 廣内智一
 時数ひかり 藤原優士朗 横山遥香 小野愛莉
 豊住瑠理 松本和篤 大津裕大 中村遙之介
 杉田きなり 野口華 山本空桜 嶋中春馬
 高梨心太郎 高島輝 大田結菜 町田大洋
 平川大智 北川光希 豊田結衣 大森青
 山田遼太郎 小林尚貴 寄立暖人 佐藤翼
 八尋羽菜 甲田彩希 河井仁美 國分真奈
 柴崎いずみ 村山寛龍 龜山れい 高柳璃歩
 猪熊輪 青木優菜 田村奏芽
 川瀬通真 荒川桃花 ティリー琴音 田村心春
 林龍生 廣瀬柚希 篠田澤 元安龍人
 中村太慈 石橋映栄 平柳佑也 曲里優那
 中村薫 稲垣碧 相澤統 柴崎結大
 河内ひより 山西怜美 佐野在哉 遠山輝
 新宮敬 中村啓 高橋寛奈 藤原和樹
 山崎一樹 遠藤霞朋 白尾珠珠 杉岡結菜
 吉田一翔 木浪由宇 池田明莉 伊藤恵
 加藤創多 大津麻裕 宮渚渚 伊藤かりん
 菅野谷永人 佐藤詩空 大場惠莉咲 景山開斗
 山本陽介 細小路路渚 森ゆつき 清水萌咲
 宮口諒 國本嵩博 黒崎慧 北畑すみれ
 徳竹知奈 神山大衣樹 仙波仁 野津佑太
 加藤記帆 山内真緒 岡原いちか 伊尾祐
 下楠蘭花笑 村上陽南 井上遙人 大塚陽斗
 今村永生 八木紗枝 児玉理九 大島慧士
 町田陽葵 飯石さくら 柳澤晴真 奥山車理
 深井一貴 黒井響一 中山花実 木暮萌香
 川崎杏梨 近藤魁星 辻久結季野 渡邊千皓
 中尾朔太郎 加古川誠 水野空 永山輝
 神原葵 岩間唯華 瀬尾樹 遊佐春人



運動会〜光り輝く子どもたち〜

今年も、運動会に向けて、組体操の練習がスタートしました。この組体操は、大宮幼稚園の年長組が、入場行進やリレー等と共に、毎年運動会で挑戦する種目の一つです。昨年、年中児だった子どもたちは、お兄さんお姉さんの、この組体操の技の一つ一つに「わー、すごい」と歓声を上げて応援していました。

そして、いよいよ今年は、年長児となった自分たちの番。練習初日、昨年の事を思い出し「見ていてどうだった？」という投げ掛けに、「協力していた」「ピシッとして格好良かった」と感想を言い、「みんなも出来るかな?」との問いにも、「大丈夫!!」と気合いたっぷり。

しかし、いざ練習に移ると「できな〜い」「痛い」と口々に弱音が…。練習後に、これは簡単に出来ることではないので、努力する大切さ、協力する大切さ、だから「年長さんには出来ない」という事を話しました。その後も練習を重ね、段々と技も決まる様になってきました。

例えば、「ピラミッド」という技で

式年奉祝大祭 9月13~16日

例祭・氏子奉幣祭(大宮八幡祭り) [15日 午前10時齋行]



豊穰感謝と皇室国家安泰を祈り、宮司祝詞奏上



氏子6地区より赤誠籠もる氏子幣をご神前に献ず



巫女による、神楽「浦安舞奉奏」

第28回 神輿合同宮入り [15日 午後6時 大宮八幡入口御発輿]



参加者で賑わう表参道を、威勢良く神輿が進む



神輿神門入りに先立ち、「木遣り」の奉納



全9基の神輿振り、ご神前は最高潮に

氏子町内会神幸所

大宮地区

大宮宮元會神幸所

方南地区

峰睦会神幸所

新栄若睦会神幸所

泉南睦神幸所

方南西神幸所

方南東神幸所(上)

方南東神幸所(下)

和田地区

和田睦会神幸所

和田敬神会神幸所

和田仲組神幸所

和田南神幸所

和田東神幸所

松ノ木地区

松ノ木睦会神幸所

式年奉祝大祭 奉納神賑行事



社殿前にて、園児神輿宮入り(13日)



大宮幼稚園 園児民謡踊り(14日)



宵宮祭に引き続き、杉並太鼓奉奏(14日)



第35回 献華いりばな小原流展(14~16日)



小笠原流 草鹿式奉納(15日)



佼成雅楽会 舞樂奉納(15日)

大宮 第97号

御鎮座950年式年奉祝大祭号

平成25年9月1日発行

大宮八幡宮社務所

〒168-8570

東京都杉並区大宮2-3-1

電話(3311)0105 FAX(3318)6100

Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp